

第6回デジタル・アーカイブの連携に関する実務者協議会

たのしい文化活動としてのアーカイブ

せんだいメディアテークにおける「コミュニティ・アーカイブ」の実践

2016年11月25日（金）

せんだいメディアテーク アーティスティック・ディレクター 甲斐賢治

目次

- 1** せんだいメディアテーク
- 2** スタジオにおけるアーカイブ文化活動の流れ
- 3** スタジオにおけるアーカイブ文化活動の位置
- 4** ファシリテートの方法・施設とスタッフの役割
- 5** 地方アーカイブ構築、その課題

1

せんだいメディアテーク



2001年開館

せんだいメディアテークは、美術や映像文化の活動拠点であると同時に、すべての人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行い、使いこなせるようにお手伝いする公共施設です。

ホームページ「メディアテークについて | 理念・サービス」より

構想時の状況、文化的背景

- 生涯学習施設、市民ギャラリー、美術館ではなくアート・センター
- 定着しつつあった「ワークショップ」の流行（学習機会）
- WINDOWS95、インターネット以降「デジタル」対応の市民活動拠点
- 図書館、映像音響ライブラリー＝アーカイブ
- 高度情報化社会における「メディア」＝メディア・リテラシー

3つのコンセプト

□ **最先端のサービス（精神）を提供する**

メディアテークにとっての「最先端」とは、「提供する側」と「提供される側」といった立場を常に反転させていきながら、メディアテークを成長させていこうとする精神です。

□ **端末（ターミナル）でなく節点（ノード）である**

メディアテークは、チャンスという枝や葉を伸ばすノードです。人々はおだやかに異質なものに触れ、メディアテークの外へ、そして多様なものへ、その好奇心と向上心を広げていきます。

□ **あらゆる障壁（バリア）から自由である**

メディアテークは、身体的な障壁、性差、年齢差、言語障壁などさまざまな社会的な隔たりを、「使う」という立場から調整する「場」です。

施設提供サービスと主催事業の企画運営

- 施設提供（貸館）
 - ・ 1Fオープンスクエア、ギャラリー、シアター、会議室や機器等の貸出

- 主催／共催事業等の企画運営
 - ・ 展覧会、上映会、ワークショップ、トーク、シンポジウム等の企画運営
 - ・ 自主事業と**市民グループ**などとの連携や**協働事業**

7F スタジオにおける協働事業＝メディア実践（アーカイブ文化活動）

メディアを活用して、地域の文化をつくるプロジェクトの総称です。地域の歴史や文化をデジタルアーカイブとして残していく活動や、企画会議や編集会議などのメディアを使った創作と実践の活動などに取り組みます。

ホームページ「プロジェクトリスト | メディアテスタディーズ」より

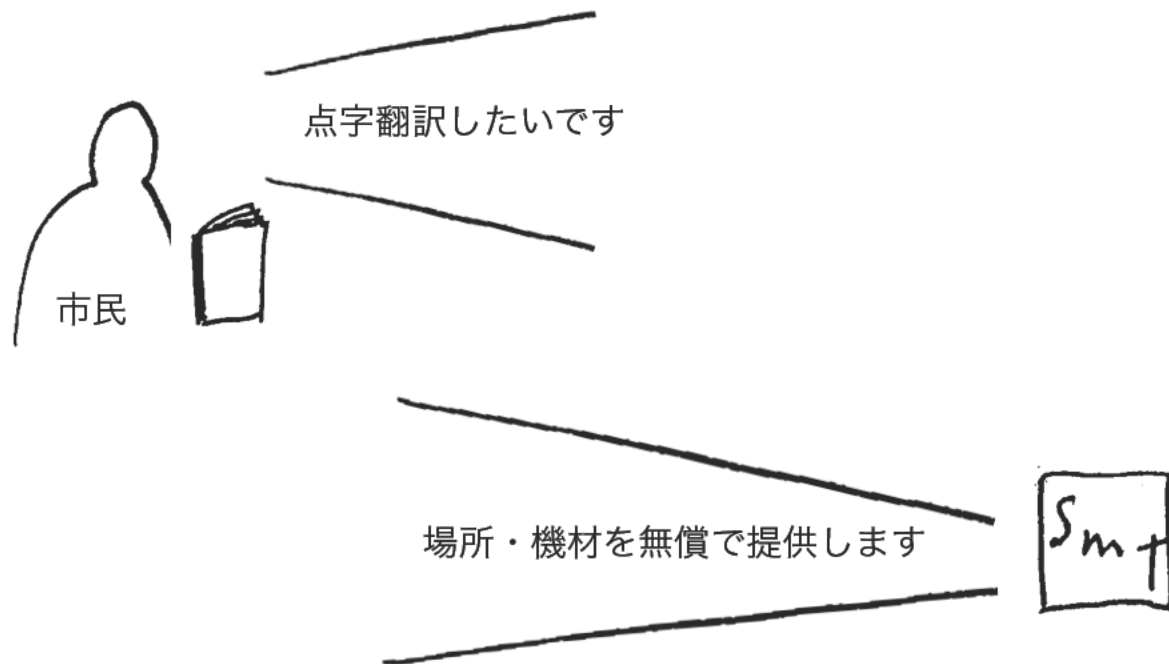
「スタジオ」というユニークな仕組み

- ・モノではなく、人を求めている。
- ・公共財として記録を残すこと（地域文化アーカイブ）
- ・写真や映像を囲んだり、常に対話の場へと運ぶ。

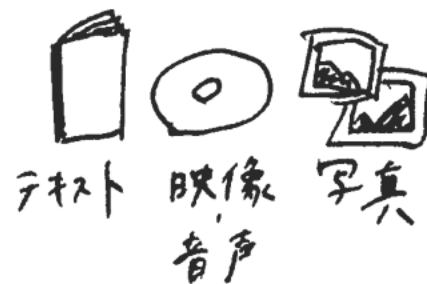
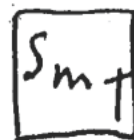
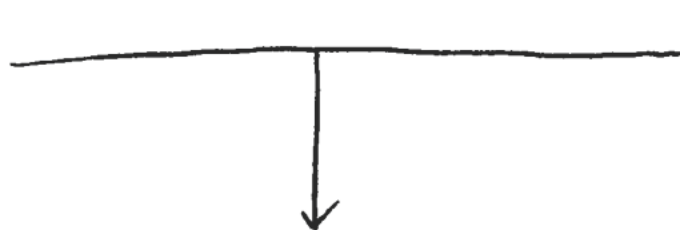
「コミュニティアーカイブ」としてとらえる

地域コミュニティ、時間・関心コミュニティなど、そのコミュニティの一員自らが、時に専門家も交えて、アーカイブする活動。

協働のモデル | スタジオ活動

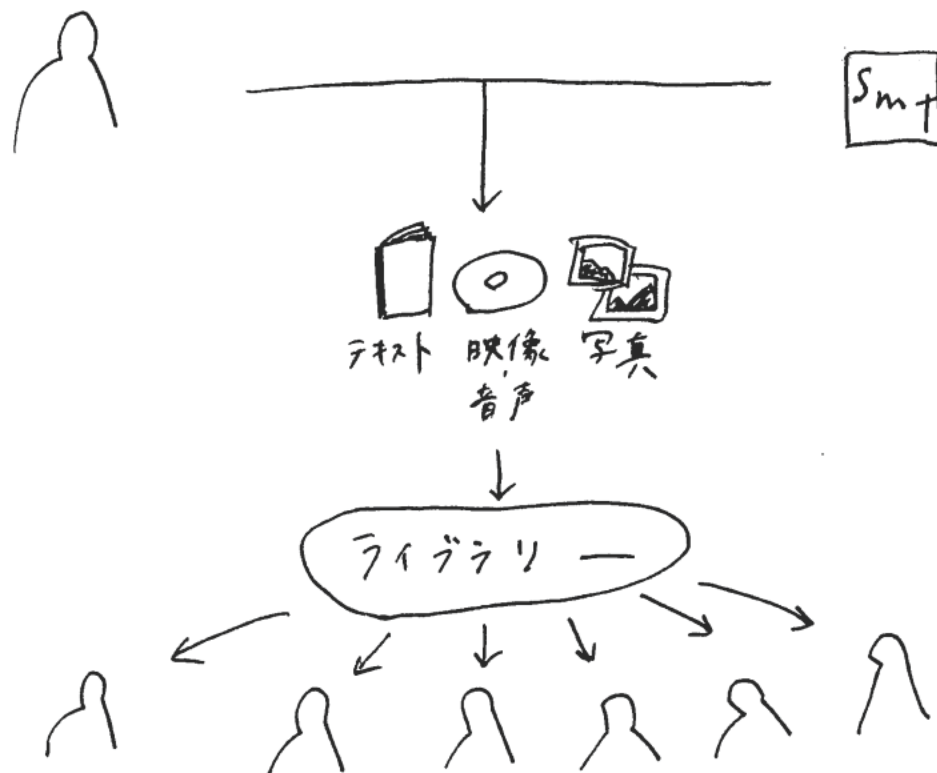


協働のモデル | スタジオ活動

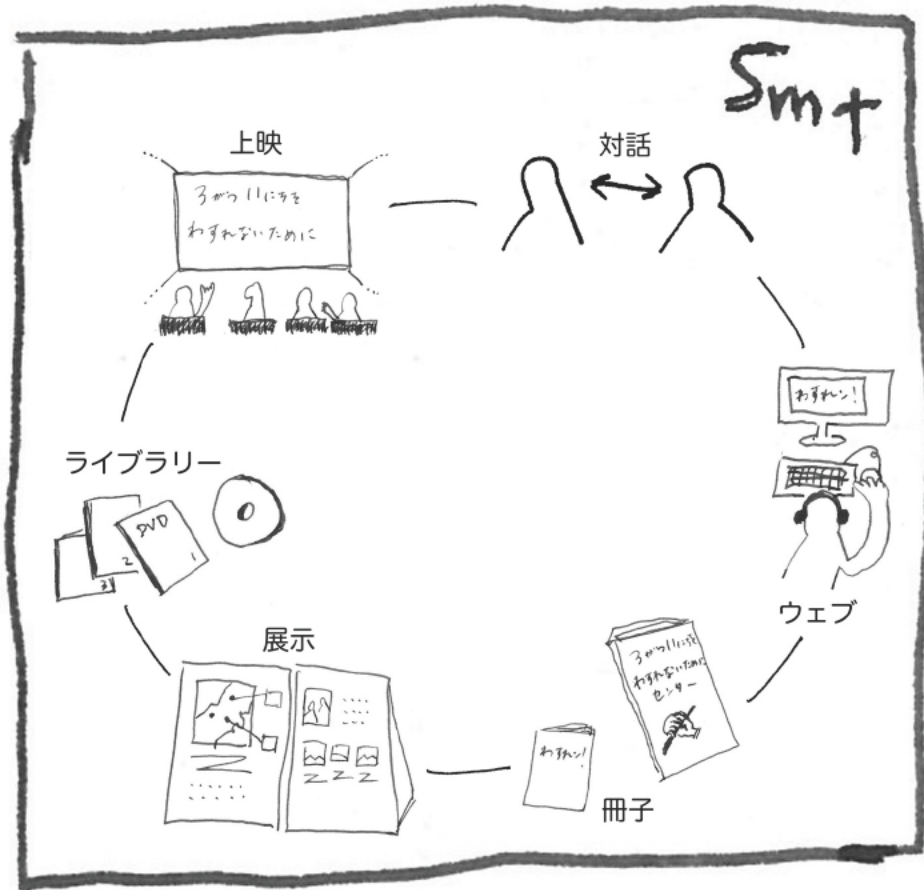


活動の成果物ができる

協働のモデル | スタジオ活動



協働のモデル | スタジオ活動



2

スタジオにおけるアーカイブ文化活動の流れ

●参加者を募集する

記録したい人を募る

記録を後世に残し、公に開くという
意志を持つ人びとに呼びかけ、
参加者となってもらう

【重要】

ビデオカメラ等の技術や経験の
有無に関わらない



3がつ11にちを わすれない ためにセンター

発信は
さまざまな支援活動を応援し、
記録は
未来への財産となるように。

この度、東日本大震災による甚大な影響に対し、
ともに向き合い考え、復興への長い道のりを歩き
出すために「3がつ11にちをわすれないためにセ
ンター」を開設します。

このセンターでは市民、専門家、スタッフが協働
し、復旧・復興のプロセスを独自に発信、記録し
ていきます。さまざまなメディアの活用を通じ、
情報共有、復興推進に努めるとともに、収録され
た映像、写真、音声、テキストなどを「震災復興
アーカイブ」として記録保存します。

センターには「スタジオ」と「放送局」があり、
スタジオは情報収集やビデオカメラ等取材用機材
の提供の他、テキスト執筆、映像や写真の編集、
インターネットへの配信などにご利用いただけま
す。放送局ではインターネットを介した番組の収
録と配信をおこないます。

さまざまなメディアを通じた支援活動の応援、震
災の記憶の蓄積にぜひご参加ください。

参加方法など

時間 9:00 - 20:00
参加いただく際には、事前登録が必要です。

●登録の条件

- ・センターの趣旨に沿った非営利の市民活動をおこな
う個人、団体であること
- ・またはそれを促進・支援する活動であること
- ・所定のルールに則り、ほかの参加者とも協働し、活
動すること
- ・活動の内容や記録、作品などの活動成果を公開する
こと
- ・著作権等の確認をおこない、せんだいメディアテ
ークからの情報公開を承諾すること

●申込手続き

参加する際には、連絡先や企画を記入する所定の
申込用紙をご提出いただきます。この申込書をもとに
せんだいメディアテークで活動内容・スケジュールな
どの審査をおこない、結果をお知らせします。審査に
2週間程度かかる場合があります。登録後は、利用予
約が必要です。当センター、受付・相談カウンターに
お申し込みください。

お問い合わせ

 **せんだいメディアテーク**
sendai mediatheque

企画・活動支援室
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
TEL: 022-713-4483
FAX: 022-713-4482
E-mail: wasuren@smt.city.sendai.jp
Twitter: @recorder311

<http://recorder311.smt.jp/>

記録・資料づくりを目的に機材と環境を利用してもらう 行為や活動が活性化する

スタジオの日常



取材のための打ち合わせ中。

「サロン・ド・わすれんヌ」



毎週水曜 18:00 - 20:00 に開催！
参加者のみなさんとスタッフの交流・情報
交換のためのサロン。

「みやぎ民話の学校」



今回の大津波を、民話で語り伝えるための
打ち合わせ中。

「映像を囲む場づくり」

トークイベント



ノルウェー出身のメディアアーティスト/
プロデューサーのアスケ・ダム氏による
トークイベントを開催。

「きろくぶ！」

ワークショップ



震災をうけ、今なにを記録すべきか？を
集まったみんなで考え撮影する学外クラ
ブ活動です。

ワークショップ



ビデオカメラ、三脚を使って撮影の基礎技
術を学びます。

ワークショップ



映像を囲んでみんなで話します。

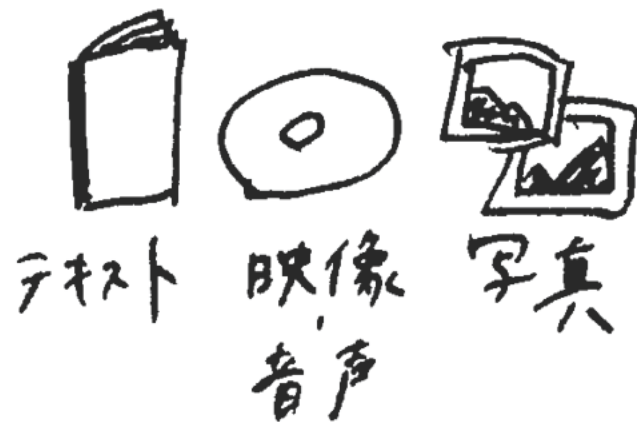
「あかかぶの会」



開かれたアーカイブをつくるための勉強
会です。



● 活動の結果として生まれた成果物 = 「記録物」や「資料」を預けてもらう。



デジタルデータ・公共財



●素材を編集し、ウェブサイト、展示用パネル、DVD、上映会などで公開する。

「ウェブサイトでの配信」

素材を編集、記事にして配信する。

「展示用パネルの制作」

資料を展示用パネルにレイアウトし展示、貸し出す。



3が11にちをわすれないためにセンター

特設はさまざまな支援活動を進め、記録は未来の財産となるように。

日本語

English

ようかいほうもんしゃすう 3,780,559

すべてのコンテンツ シェアと印刷 お問い合わせ タイムライン 探す シリーズ



震災から得た新しい視野

記録者：イル 生熟の宮城県人 仙台市霞
部在住レスビアン層の「イノリバ育りの
ネコ」中性育りの女性 までちゅうぶらり
んが活動のメインリテイを築き上げている。
特設の声を活かして音楽活動をしながら、
社会にマイノリティを

▶ Read More

サイト 画像 動画



震災から得た新しい視野

記録者：イル 生熟の宮城県人 仙台市霞部在住レスビアン層の「イノリバ育りのネコ」中性育りの女性 までちゅうぶらりんが活動のメインリテイを築き上げている。



震災後の阿良川河の様子

震災直後から1年後の阿良川河の様子。場所は仙台市森林区宮城から仙台市まで、物の無い荒涼とした風景から後の事に覆われた運河の土手は、



震災後の阿良川河の様子

震災直後から1年後の阿良川河の様子。場所は仙台市森林区宮城から仙台市まで、物の無い荒涼とした風景から後の事に覆われた運河の土手は、

センターについて

みんなメディアアークでは、東日本震災による影響に、ともに向き合い考え
るための「3が11にちをわすれないために
センター」(わすれん)を開設しまし
た。市民や専門家が協働し、震災の過
程を記録、記録制作、展示体を通り自
ら、支那を考えるstream「わすれん
TV11」も展開中。

▶ Read More



震災から得た新しい視野

記録者：イル
仙台市宮城人 仙台市霞部在住
レスビアン層の「イノリバ育りのネコ」中性育りの女性
までちゅうぶらりんが活動のメインリテイを築き上げている。
特設の声を活かして音楽活動をしながら、社会にマイノリティを

2

ライフラインの停止を皆で乗り切ったこと。

ぼっぴは最初に書いたように天然ぼあさんである。どれくらい重症かと言うと、ホームセンターのキッチン用品コーナーで“豆腐をすくうための道具”を探していて“泡たて器”を指差すくらいである。

天然ではあるが、桶泉ではない。

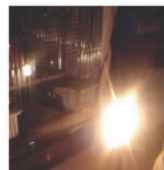
しかし、そんなぼっぴは重要な時には頼りになる女である。私を呼び「水買って来い!」と、水が出ない事に最初にあびたのはぼっぴだったのだ。一番近所のコンビニに行くも、店内は商品が壊れているのに客でいっぱいだった。

夜は倒れている鳥もぼっぴ宅に連れて来て、ぼっぴが大家をやっているアパートの住人も合わせて11人と共に過ごした。セクマイと言うより、男性恐怖症として困ったのが服する時である。この

□舞台の作り方

- 1) 大根などの野菜を輪切りにする
- 2) つまようじを半分まで刺したろうそくを野菜に刺す
- 3) できあがり

ろうそくを刺すよりも黄甲で倒れにくいので、夏の花火の際にでも試していただきたい。



震災のコンビニ。地震から1年後の震災 (2011年3月11日) 5時30分撮影



●素材を編集し、ウェブサイト、展示用パネル、DVD、上映会などで公開する。

「DVD制作、ライブラリーへの配架」

映像作品をDVDにパッケージし、貸し出しする。



「上映会の開催」

複数の映像をプログラミングし上映会などを開催する。





●収集された資料を展示する。

「クラブの『フライヤー』の展示」

地域のクラブで開催されたチラシを収集、展示。



「レコード店の『袋』の展示」

地域のレコード店の販売用の袋を収集し、展示。





●収集された資料を囲み、語らい、対話を促すイベントを開催。

「映像を囲む場づくり」

ドキュメンタリー映画など、完成前の編集過程のものをもとに見て、語らう、上映と対話の場。



「資料を囲む場づくり」

民話の記録など、収集された資料をもとに、語らうイベントを開催。



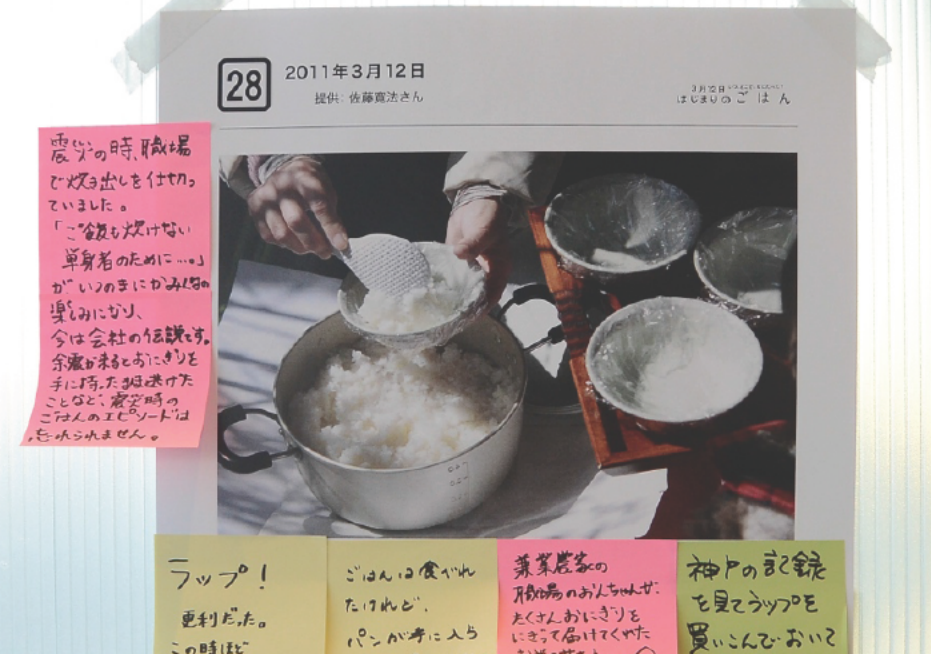


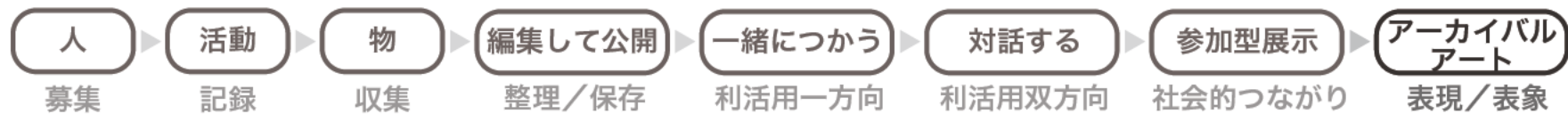
●収集された資料を素材に参加型の展示を開催。

「どこコレ?—おしえてください昭和の仙台」
 収集した写真に写っている「コレ」は「どこ」なのか来場者にたずね、写真の情報を確定させていく。



「はじまりのごはん—いつ、どこで、なに食べた」
 炊き出し、買い物、食卓の風景など、震災時の「ごはん」にまつわる写真を展示、エピソードを募る。





●アーカイブされた資料を素材に、アーティストを交え展覧会を企画・開催する。

「記録と想起 ～ イメージの家を歩く」

震災にまつわる映像作品や記録を台所や寝室といった「生活の場」で鑑賞する。



「物語のかたち～現在に映し出すあったること」

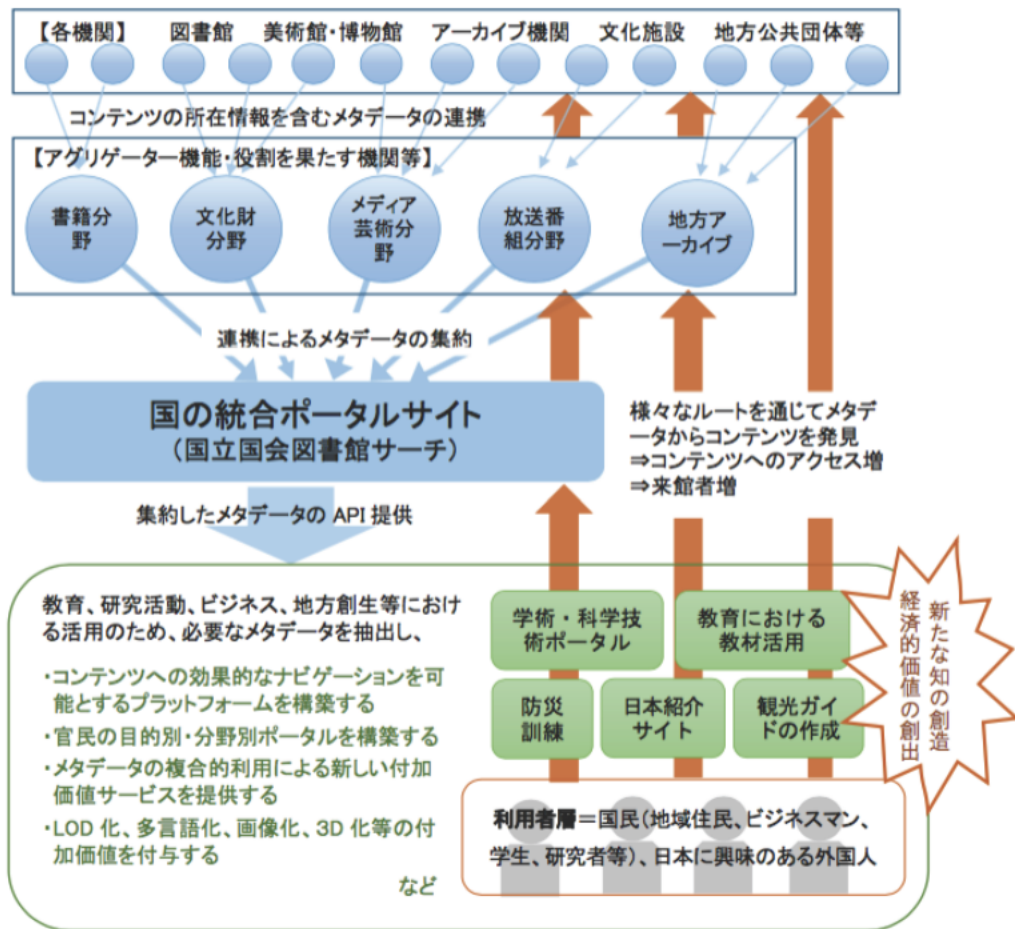
アーティストを招聘し、作品制作の素材に、収集された東北の「民話」を活用するなどした展覧会。





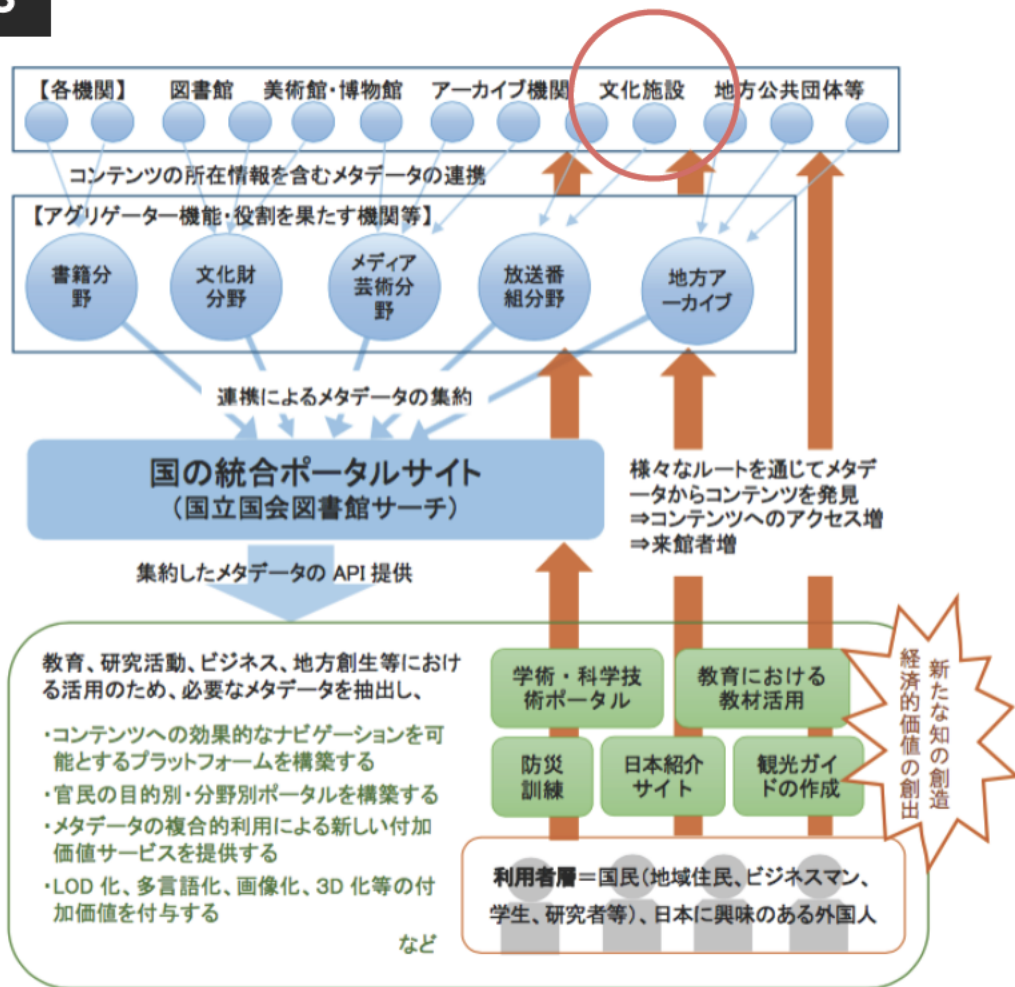
3

スタジオにおけるアーカイブ文化活動の位置



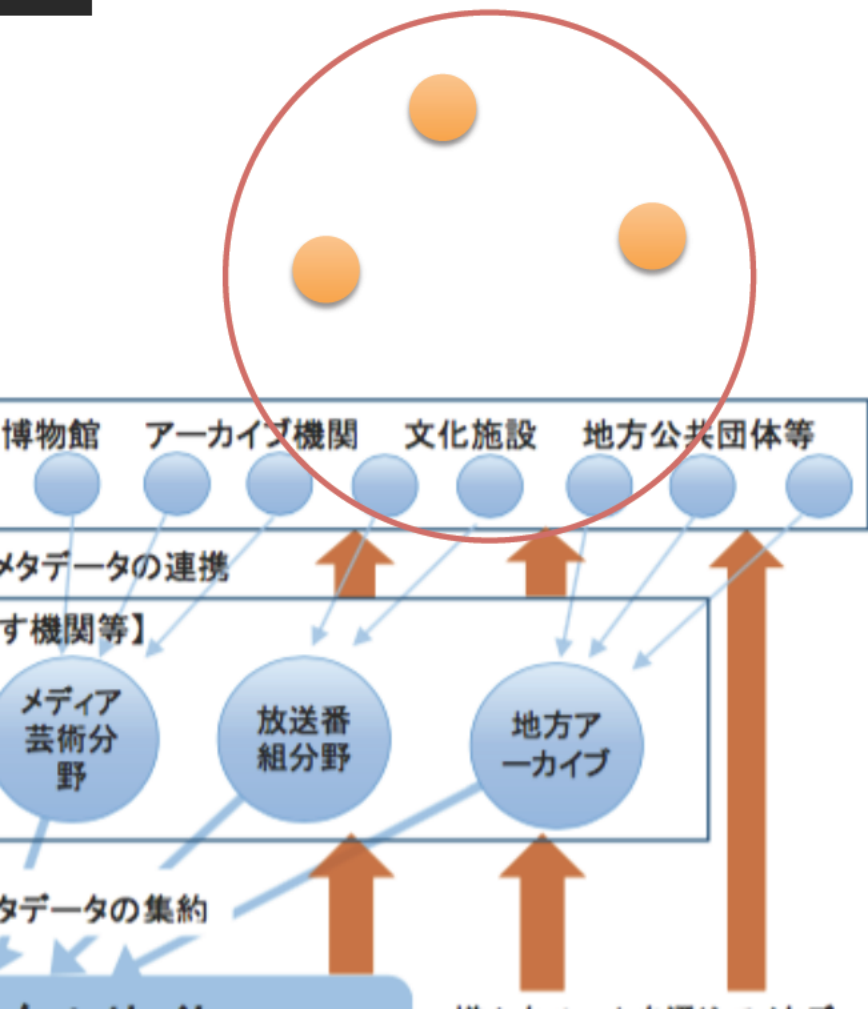
せんだいメディアテーク・スタジオにおけるアーカイブ文化活動の位置

「デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会 中間報告」(図1 メタデータの流れと望ましい利活用イメージ) に照らし合わせると、、、



せんだいメディアテーク・スタジオにおけるアーカイブ文化活動の位置

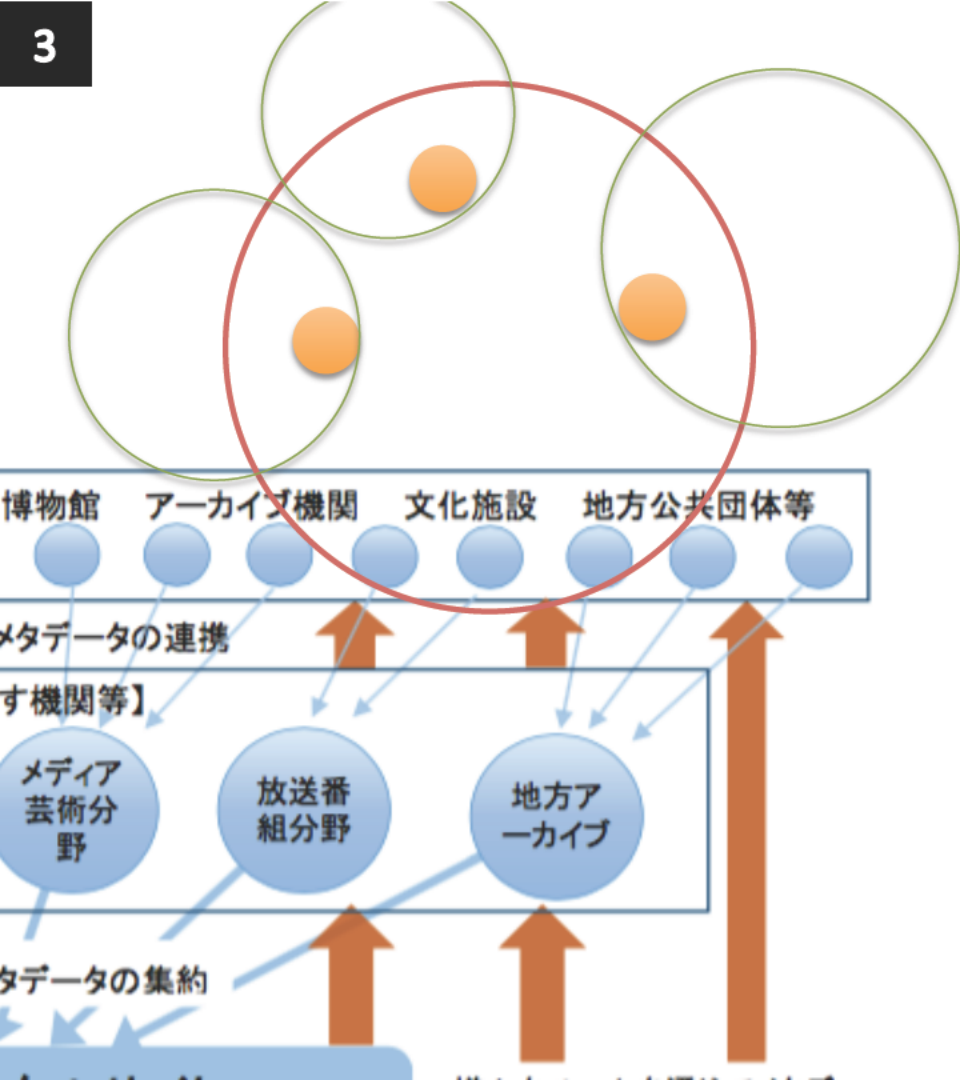
「デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会 中間報告」(図1 メタデータの流れと望ましい利活用イメージ)に照らし合わせると、、、



せんだいメディアテーク・スタジオ におけるアーカイブ文化活動の位置

「デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会 中間報告」(図1 メタデータの流れと望ましい利活用イメージ)に照らし合わせると、、、

1, スタジオでの協働活動において、市民グループなどの「プロジェクト」を審議の上、受け入れ、活動の拠点となる。

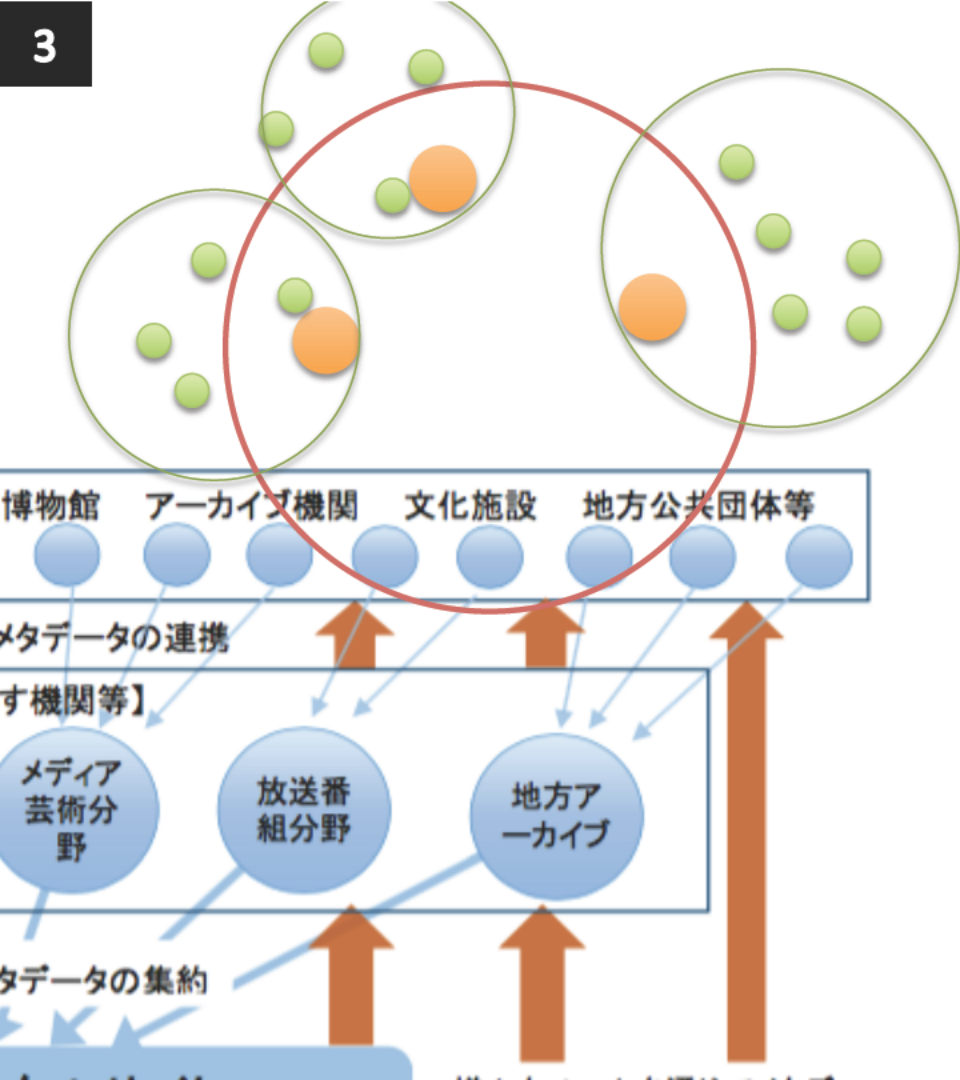


せんだいメディアテーク・スタジオ におけるアーカイブ文化活動の位置

「デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会 中間報告」（図1 メタデータの流れと望ましい利活用イメージ）に照らし合わせると、、、

1, スタジオでの協働活動において、市民グループなどの「プロジェクト」を審議の上、受け入れ、活動の拠点となる。

2, プロジェクトは誰もが参加可能で開かれていることが条件となる。



せんだいメディアテーク・スタジオ におけるアーカイブ文化活動の位置

「デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会 中間報告」(図1 メタデータの流れと望ましい利活用イメージ)に照らし合わせると、、、

1, スタジオでの協働活動において、市民グループなどの「プロジェクト」を審議の上、受け入れ、活動の拠点となる。

2, プロジェクトは誰もが参加可能で開かれていることが条件。

3, それぞれに参加者が集う。

4

ファシリテートの方法・施設とスタッフの役割

ファシリテートの方法 施設とスタッフの役割

では、実際のところ、
スタジオにおける協働事業や
文化活動としてのアーカイブは、
どのような考え方、仕組みで
運営されているのか。

スタジオ協働事業（アーカイブ文化活動）のファシリテート

- スタッフによるファシリテートの役割は、アーキビストに限定されない
 - ・「学びに基づく楽しさ・愉しさ」がなくては活動は目減りしていく。
 - ・ファシリテートは併走者、支援者、監督者など複合的な役割をもつ。
 - ・アーカイブの専門知識の必要性は活動におけるごく一部のものである。
 - ・市民グループ＝自ら企画し活動する主体とは、ボランティアではない。

- 市民グループをキュレーションする
 - ・活動の質的価値を判断し、互酬的な関係を見出し、役割を分担する。
 - ・他者としてそのコミュニティに関わることで、活動に緊張を与える。
 - ・専門的な知識、技術は双方にあり、適切に提供し合う、共犯関係。
 - ・より良いありようへと文脈づけ、発信していく。
 - ・ありていな「文化財」の認識に、留まってはならない。

端末（ターミナル）でなく節点（ノード）である
メディアテークは、チャンスという枝や葉を伸ばすノードです…
～せんだいメディアテークのコンセプトより

スタジオ協働事業（アーカイブ文化活動）のファシリテート

- 「何を残すべきか」にかんする指導・設定は一切ない。
 - ・ 「なにが大切か」「何を残すか」は、市民自らが考える。
 - ・ 主体的・能動的な学習の機会の維持・確保。

- 「地域文化（財）」の概念は広い。
 - ・ 近代の街並みが写された写真やフィルムの収集、発表
 - ・ 民話の採話活動と保存、資料化
 - ・ （音楽の）クラブのチラシのデジタル化、展示
 - ・ レコード店の袋の展示
 - ・ ある映写技師のドキュメンタリー映画制作、、、などなどいわゆる「指定文化財」ではフォローしづらい広域な分野。

最先端のサービス（精神）を提供する
「提供する側」と「提供される側」といった立場を常に反転させて…
～せんだいメディアテークのコンセプトより

スタジオ協働事業（アーカイブ文化活動）のファシリテート

●保存について

- ・自治体の財産にすることで生じる価値と危うさ。
価値 = 活動がエンパワーメントされ、活性する。
活動と活動から得られる財が、公益性を帯びる。
危うさ = 利活用の構造をともに設計しないと、広く誰もが、
アクセスするには遠く、ハードルが高くなってしまう。
ライブラリーを活かし、イベントを設え、共有の場をつくる。

●権利について

- ・「わすれん！」では資料を収集するのではなく、資料が作成される段階から、著作権者（参加者）と直接関わることができる。その結果、記録物の著作権と、さらに取材対象者の肖像権にまつわる書類なども含め、映像や写真などの各種データと一緒に預かることができる。
- ・包括的利用許諾（仙台市は著作権者ではない）

資料化=contextualization
文脈化という過程をひらく
(メタデータの考え方)



資料化=contextualization
文脈化という過程をひらく
(メタデータの考え方)

●写真や映像の外を知る

- ・「見えない」は「わからない」



資料化=contextualization
文脈化という過程をひらく
(メタデータの考え方)

●写真や映像の外を知る

- ・「見えない」は「わからない」

●教えてもらう。

- ・ヒアリング、対話、イベント等。
- ・参加者や来場者、一般に広く。
- ・多様な視点が得られ、補完される。



資料化=contextualization
文脈化という過程をひらく
(メタデータの考え方)

●写真や映像の外を知る

- ・「見えない」は「わからない」

●教えてもらう。

- ・ヒアリング、対話、イベント等。
- ・参加者や来場者、一般に広く。
- ・多様な視点が得られ、補完される。

●他者に聞くことを通し、資料化




タグ=tag

28 2011年3月12日
提供: 佐藤寛法さん

2011年3月12日
はじまりのごはん

愛知の時、職場
で炊き出しを付けて
いました。
「ご飯も炊けない
単身者のために...」
が、いつのまにか米粒の
臭いになり、
今は会社の伝説です。
余飯が来るたびに炊き
手に持たず、おぼろげな
ことなど、職場時の
ごはんのイベントは
ありません。



ラップ!
便利だ。
この時は
お弁当を巻いた
これはいい...

ごはんは食べれ
たけれど、
パンが考に入ら
なくて、食べたがら
い! っ!

兼業農家の
職場のおいしさが、
たくさんおにきりを
いまして届けてくれた
お米のせいで、
農家の味まで
覚えた。

神戸の記念
を見てラップを
買ったおにきり
袋に入ったので
す。

3/23頃、久しぶり
に仕事、出勤途
中が流れて、ホテル
の合い、¥1000と
¥1000美味PFF。

ガスが通らなかった瞬間、
ストーブの鍋にお湯を
注ぎ、そういえば、
食べていました。
おたけいものを食べると
死ななかった。

パン屋に入ってTwitterで
泣いた。友人がガスでパンを
焼いて、そのお米を
買って来てくれた。
旧運搬用のパン屋さんに直した
時、お米2人前まで売れた
のは、お米2人前まで。

最悪、お米は
とがなくても大丈夫。
お米と水がかわらなくて
なると食べれません。
水がなかったら。

タグ=tag

●写真や映像の外を知る


- 写真内の情報によるタグ付け。
例／白米、鍋、皿、ラップ、手、、、
- 「正確なタグ」では見えない、わからない

28

2011年3月12日
提供: 佐藤寛次さん

2011年3月12日
はじまりのごはん

震災の時、職場
で炊き出しを付けて
いました。
「ご飯も炊けない
単身者のために...」
が、いつのまにか米粒の
変化に気が
今は会社の任侠は、
余糧が来るたびに手
手には、たまたま選り
こぼした。震災時の
ごはんのエピソードは
たくさんあります。



ラップ!
便利だ。
この時は
お弁当を巻いた
これはいいかも

ごはんは食べれ
たけれど、
パンが手に入ら
なくて、食べたのが
パン!

兼業農家の
職場のお弁当が、
たくさんおにぎり
に変わって居た
お米の事で、
農家の話を
知った。

神戸の記録
を見てラップを
買った。おにぎり
袋にラップを
貼った。

3/23頃、久しぶり
に仕事の出勤途
中、コンビニの
おにぎり1000円
の袋で美味PFF。

ガスが通らなかった
ストーブで湯を
沸かして、そうすいチャーハン
を食べました。
おたけいものを食べただけ
で死ななかった。

パン屋に行ってTwitterで
泣いた。友人がガスでパンを
焼いて、そのお米を
買って来てくれた。
旧連合のパン屋さんに
行った時、お米2人前を
買ったのは、お米2人前
のパンを買った。

最悪、お米は
とがなくても大丈夫。
お米は何かかかると
なると食べれません。
水がなかったから。

「3月12日はじまりのごはん—いつ、どこで、なに食べた?—」 (協働: NPO法人20世紀アーカイブ仙台)

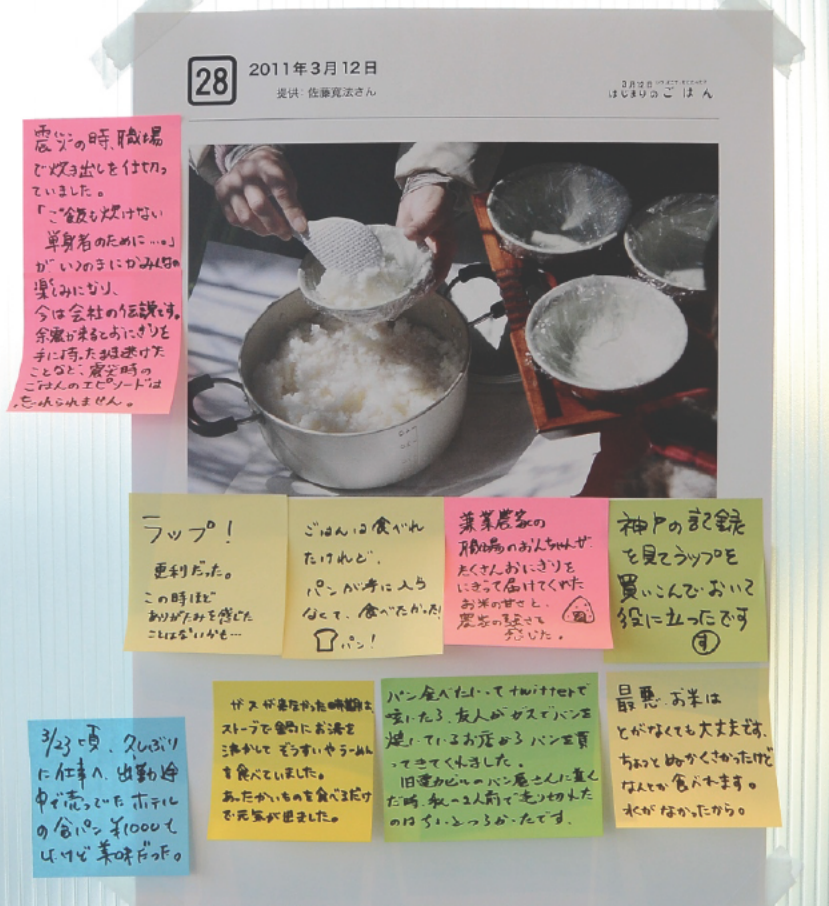
タグ=tag

●写真や映像の外を知る

- ・写真内の情報によるタグ付け。
例／白米、鍋、皿、ラップ、手、、、
- ・「正確なタグ」では見えない、わからない

●テーマの発見

- ・アイデンティティを喚起する対象やテーマを発見する



タグ=tag

●写真や映像の外を知る

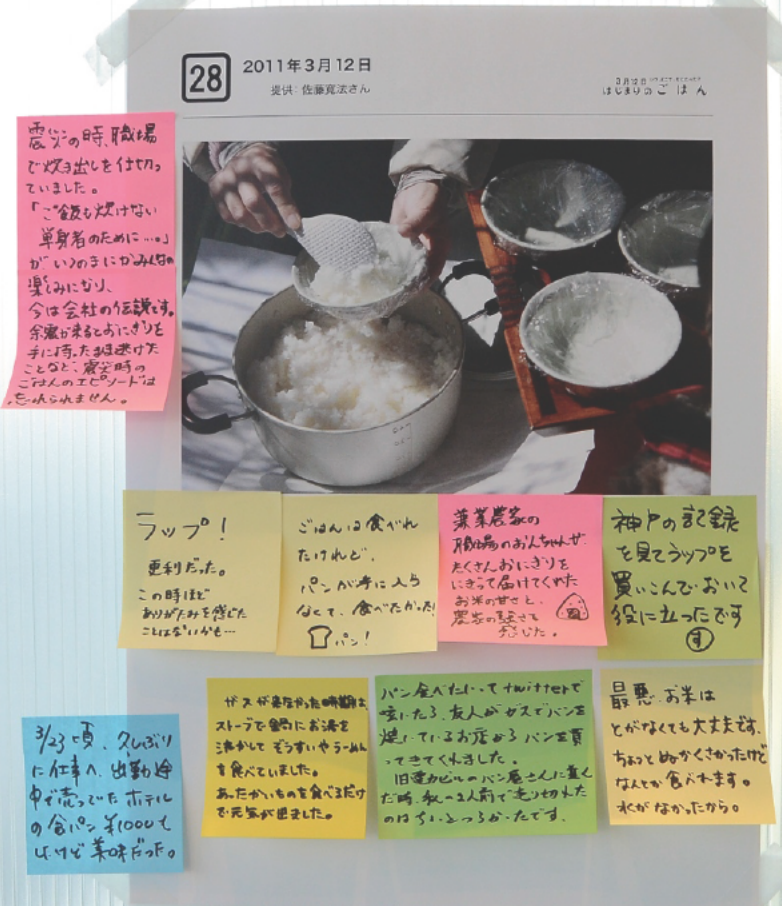
- ・写真内の情報によるタグ付け。
例/白米、鍋、皿、ラップ、手、、、
- ・「正確なタグ」では見えない、わからない

●テーマの発見

- ・アイデンティティを喚起する対象やテーマを発見する

●ソーシャルタグ (タグging)

- ・展覧会等のイベントを開催、一般に開く。
- ・ポストイット>個人のエピソードが集積。



「3月12日はじまりのごはんーいつ、どこで、なに食べた?ー」 (協働：NPO法人20世紀アーカイブ仙台)

タグ=tag

●写真や映像の外を知る

- ・写真内の情報によるタグ付け。
例／白米、鍋、皿、ラップ、手、、、
- ・「正確なタグ」では見えない、わからない

●テーマの発見

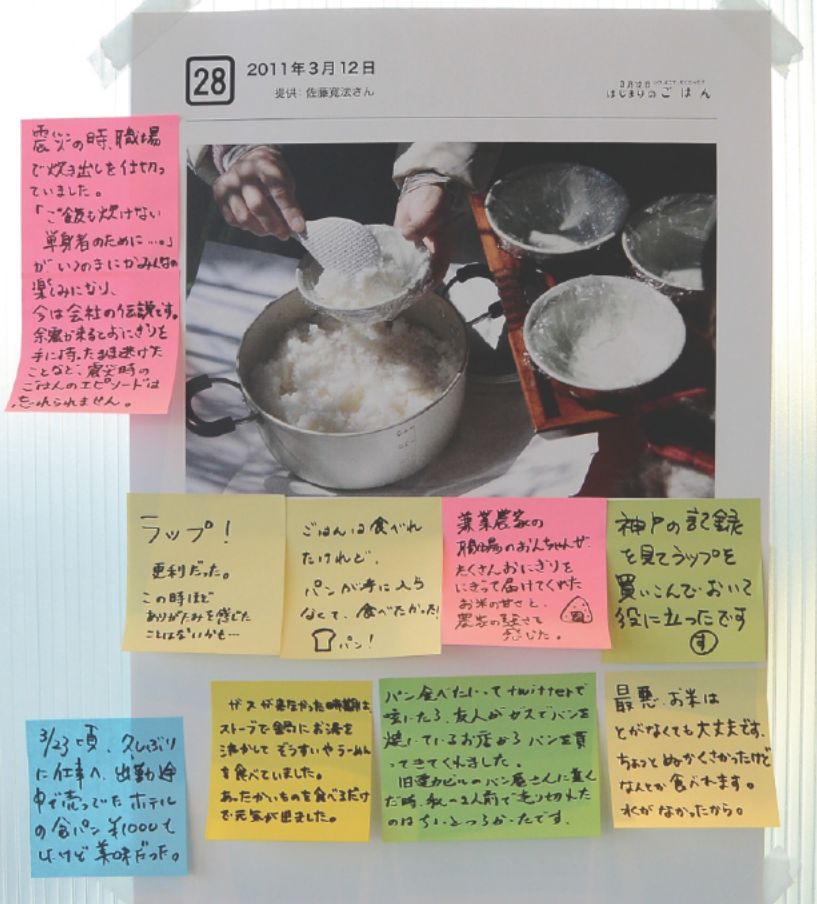
- ・アイデンティティを喚起する対象やテーマを発見する

●ソーシャルタグ（タギング）

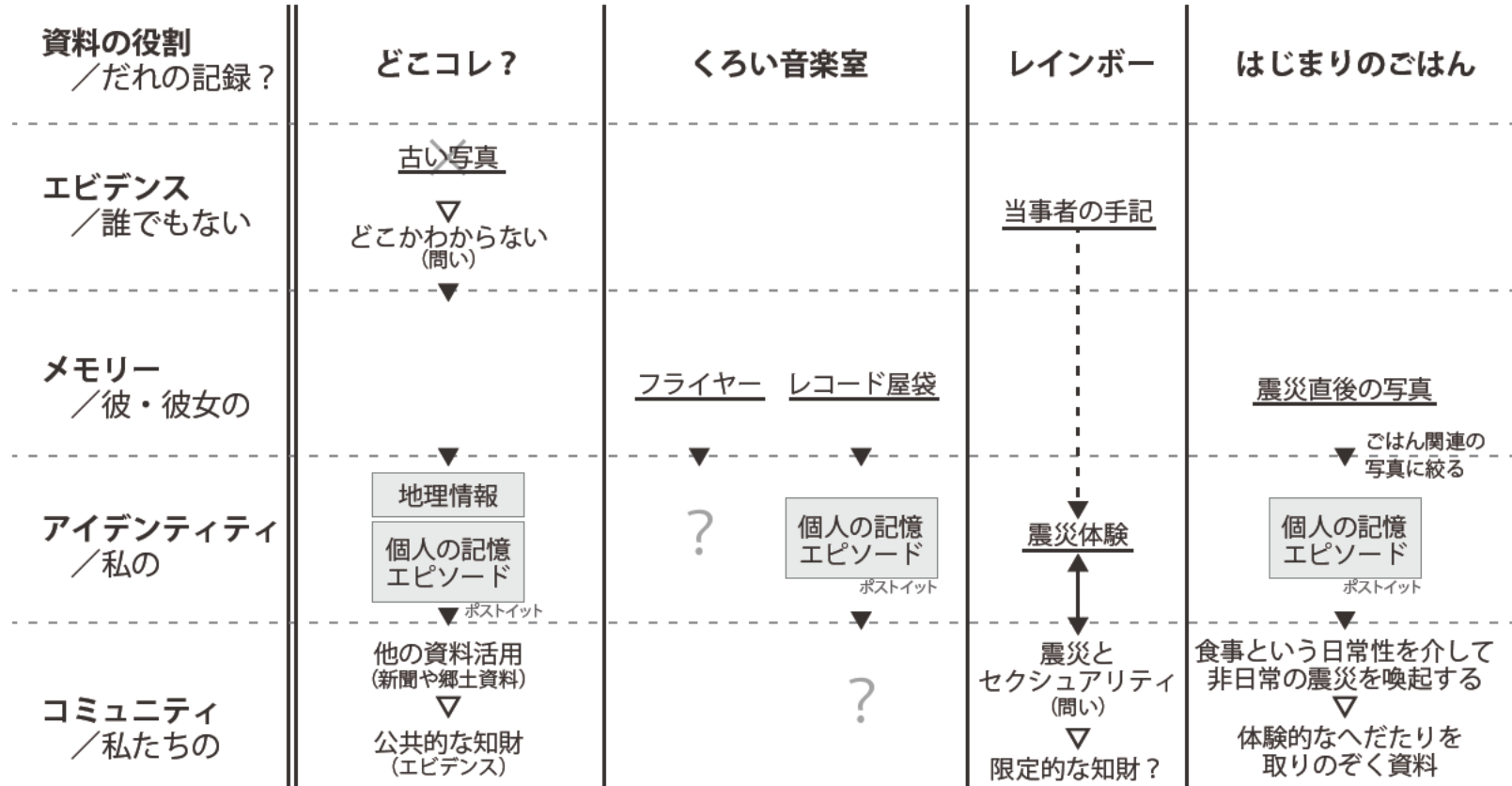
- ・展覧会等のイベントを開催、一般に開く。
- ・ポストイット＞個人のエピソードが集積。

●資料化への参加

- ・利用者から記録をつくる側への転換

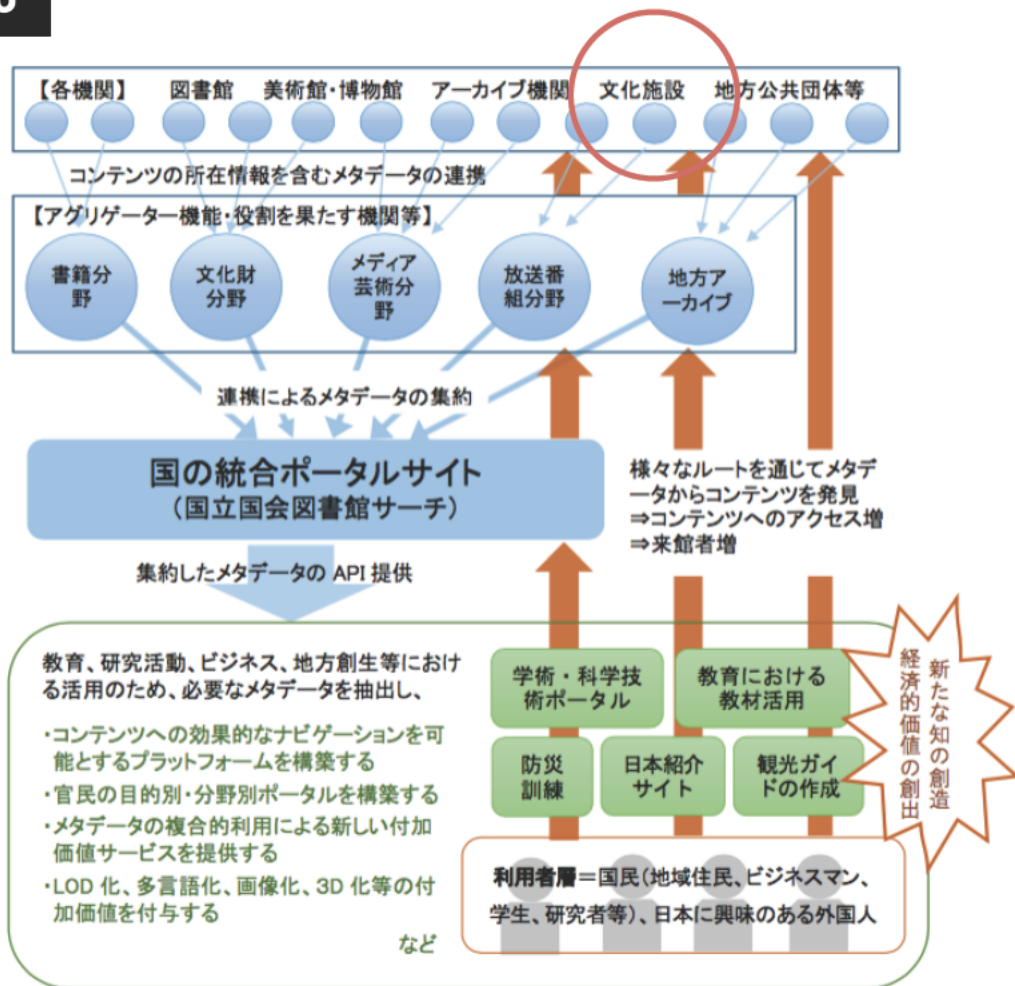


プロジェクトごとの資料の役割の変化（試案）



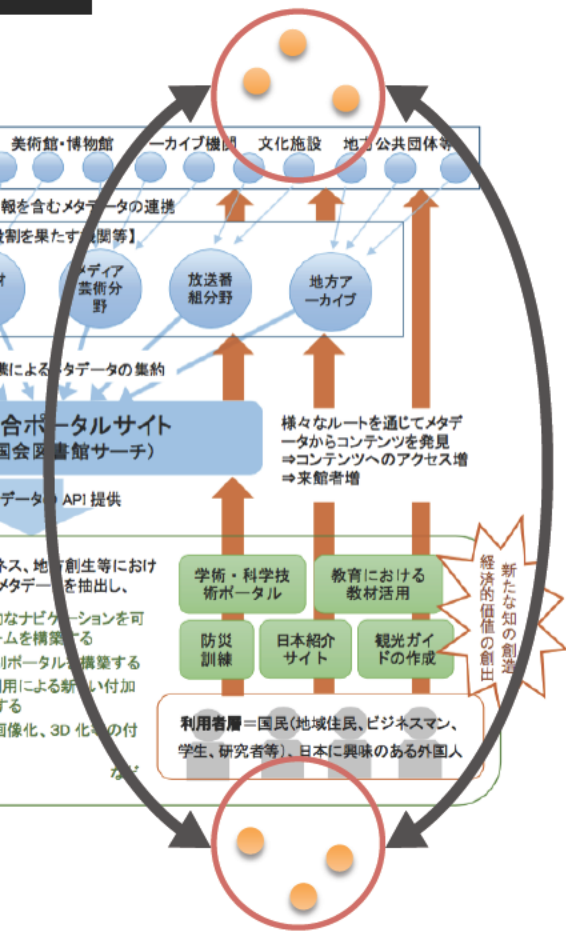
5

地方アーカイブ構築、その課題



まとめ： せんだいメディアテークと 地方アーカイブ構築、その課題

再度、「デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会 中間報告」(図1 メタデータの流れと望ましい利活用イメージ)に照らし合わせると、、、



まとめ：

せんだいメディアテークと地方アーカイブ構築、その課題

まとめ

- ・記録する者、利用する者は分別なく、同じレベルにいる。
- ・アーカイブにかかわる多様な役割を担う人々＝アーカイバルなコミュニティを醸成することが必要。
- ・デジタルデータとアナログな現場の双方を行き来することで、活動の活性化を図る。
- ・楽しさ、ミステリーなど人を引き寄せ、喚起させるための問いかけやテーマづくりなどが重要（キュレーション？）

課題

- ・一般的に、アーカイブの価値にまつわるコンセンサスはまだ得がたく、資金、設備、スタッフの確保に限界がある。
- ・活動の維持、質の向上に向けて、地方アーカイブ活動にまつわる助成制度、評価の整備が必要である。
- ・アーキビストに留まらない、多機能な人材育成が必要。

